

## 第1回校内研究全体会資料

### (1) 研究主題

主体的に学ぶ子供の育成  
～学びを実感できる指導の工夫～

### (2) 主題設定について

本校では、第6次山形県教育振興計画（後期計画）の「目指す人間像」の一つである、「学びを生かす人」、学習指導要領の、「予測できない変化に主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、自らの可能性を發揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となっていけるようにする。」をもとに、「新しい時代に必要となる資質・能力の育成」を目指し、国語科を中心に、探究型学習を通した「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を大切に授業実践・改善を行ってきた。

3年間研究テーマを「主体的に学ぶ子供の育成」、サブテーマを「探究型学習を通した、学びを実感できる指導の工夫」として「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を大切に授業実践・改善に取り組んできた。

これら三つの学びを展開することで子供たちが自分自身に問いかけ、ふり返りながら行う自発的な学びとなり、探究的な学習が行われている様子が見られた。今年度より本校学校経営の重点の一つに「主体的に学習し、学びを実感できる指導の工夫」が位置づけられたことも含め、今年度はテーマを「主体的に学ぶ子供の育成」、サブテーマ「学びを実感できる指導の工夫」として、研究を進めていきたい。

これまで研究してきた中で見えてきた課題が三つあった。

一つ目は、目標・指導・評価の一体化を意識するとともに、子供たちがより見通しを持って学習できる単元構成や言語活動の工夫をすることである。子供たちの実態に照らし合わせながら、整合性のある授業づくりをしていきたい。また、カリキュラムマネジメントも考慮し、本校の学習活動に沿った単元構成を設定していくことがより子供たちの主体性を引き出し、学びを実感することにつながるものとする。

二つ目は、学び合いの具体的な目的と手立てを持つことである。適切な場面で交流を仕組んでいきたい。話し合うことに必然性を持たせる工夫や、指導過程の中のどの場面で交流を仕組むことが適切なかを考えていきたい。また、学び合いにおける子供たち同士の対話の仕方や、多様な思いや考えを受け入れ、互いに認め合える学級の雰囲気も大切にしていきたい。

三つ目は、本校の目指すふり返りをさらに深めることである。昨年度は本校の目指すふり返しとして、単元を通してのふり返しや1時間の中でのふり返りの在り方が明らかになってきた。今年度はそのふり返りを教師がどう見ていくか、子供たちがどのように次に生かすかなど、書かせた後のことも考えていきたい。

今年度は、上記三つの課題を解決しながら、昨年度までの成果を生かしつつ本校の目指す学びについて追究していく。そして、学校目標を実現できる学校研究をしながら取り組んでいきたいと考える。

### (3) 主題のとらえ方

「主体的に学ぶ」：学び方を身に付ける。

課題設定／情報収集／整理・分析／まとめ・表現

- ① 学習課題・問いを把握し、見通しをもつ。
- ② 問題解決しながら、知識技能を習得し、問題解決に必要な能力を身に付ける。
- ③ ふり返りをとおして、新たに次の活動の見通しをもつ。

### (4) サブテーマについて

「学びを実感できる指導の工夫」

- ① **できるようになった自分・わかるようになった自分・成長した自分・高まった自分に出会い、実感を伴って学習してよかったと思える授業を仕組む。**
- ② **多様な思いや考えがあることを知り、自分の考えを広げたり深めたりして、自分の疑問や問いを解決したりする学びの姿が見えるようにする工夫。**

### (5) 研究のねらいについて

目指す子供像

- ・学習の見通しをもち、主体的に考えることができる子供

単元全体を見渡して、**目標**、指導と評価の一体化を意識し、つけたい力の明確化とそれを実現する言語活動、その評価を計画的に行う。→ゴールを明確にする。

- ・学び合う必然性を実感し、自分の考えを表現することができる子供

伝えたいことを、相手にわかるように表現したり納得できるように根拠を明確にしたりする。友達の立場や意見のよいところを考えながら聞いたり、自分の考えと比べたりつなげたりするなど、**目的を持って交流しながら自分の考えを見つめ直す。**

- ・学習を通して、自分の考えが広がったこと、深まったこと、高まったことを実感できる子供

話し合いや学習のふり返しを通して、わかったこと、変わったこと、感じたことをふり返し、自分の変容に気づく。

広がり：新しい考えやその根拠を獲得する。

深まり：自分の考えに確信をもったり変容させたりする。

高まり：友達と刺激・影響し合ってお互いに考えを向上させる。

**ふり返ったことを生かして次の学習のきっかけにしたりさらに学びたいことを見つけたりするなど発展的に学ぶ。**

## (6) 研究の視点について

視点1 主体的な学びにつながる単元構成と言語活動の工夫

- ① つけたい力の明確化 (必須)
- ② 本校の学習活動に沿った単元構成 <カリキュラムマネジメント>
- ③ つけたい力にあった言語活動の工夫 <言語活動の工夫>
- ④ 児童が主体的に学ぶことができる単元構成の工夫 <単元構成の工夫>

### 留意点

- 単元でつけたい力をつけるための課題、適切な言語活動の設定の精度を高める。
- 本校の特色ある行事や総合的な学習の時間、他教科等と結びつけ、実際に活用できるようにする。
- 学年ごとの系統性や発達段階、児童の実態に応じた単元計画にする。

視点2 自分の考えを持ち、伝え・高め合う学び合いの工夫

- ① **学び合いの目的の吟味や場面設定の工夫 <学び合いの目的や場面設定>**
- ② **自分の考えを持たせるために書く活動の確保 <考えを持たせる工夫>**
- ③ 説明の仕方、質問の仕方、質問に対する答え方などの子供たち同士の学び合いの工夫 <学び合いの工夫>

### 留意点

- 何のために交流するかを教師が意識することで、子供たち同士の学び合いの内容を焦点化させる。
- 自分の考えを確実にもって交流させる。
- 子供たちが主体となって深い学びを実現できるよう、多様な説明方法や質問方法などの学び方を吟味する。

視点3 指導と評価の一体化とふり返りの工夫

- ① ふり返らせたい場面を設定 <ふり返る場面の工夫>
- ② ふり返しを見とる内容の焦点化 <ふり返りの焦点化>
- ③ ふり返りの見方、生かし方の工夫 <ふり返しを生かす工夫>

### 留意点

- ふり返しを見とる内容として次のようなものに注目していく。
  - ・知識・技能を習得したり活用したりするふり返し
  - ・自分の思いや考えと結びつけるふり返し
  - ・考えを形成するふり返し
  - ・友達との学び合いや自分の変容に関するふり返し など
- **単元や1時間の中のどの場面でふり返らせることが子供たちの学習に有効かを吟味する。**

#### 【1】単元を通してのふり返し

- 1次; はじめのふり返し(感想)
- 2次; 学習してのふり返し
- 3次; 学習を終えてのふり返し

#### 【2】1時間の中でのふり返し

- レベル1 今日学習でわかったこと
- レベル2 次の学習で取り組みたいこと
- レベル3 話し合って気づいたこと
- レベル4 発見したこと

- **ふり返しを教師がどう見ていくか、子供たちがどのように次に生かすかなど、ふり返しを活用していく。**

## (7) 目標と評価について

ア 目標

- (1) 知識及び技能
- (2) 思考力, 判断力, 表現力等
- (3) 学びに向かう力, 人間性等

イ 評価 (指導計画では次のように「観点別評価」の表記になる)

知識・技能 : 言葉の働き, 役割, 特徴, きまり, 使い方, 言語文化に関する理解

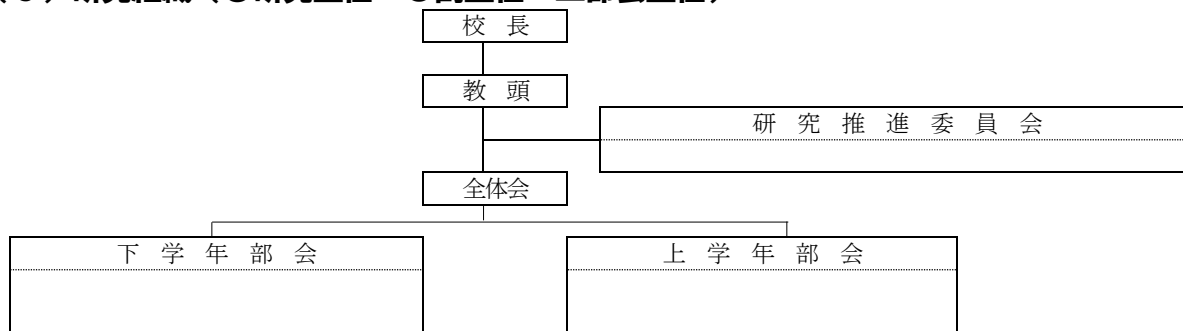
思考・判断・表現 : A話すこと・聞くこと B書くこと C読むこと

主体的に学習に取り組む態度 : 言葉を通じて必要な情報を集める・文章にまとめる・意見を述べる  
「～しようとしている。」

### (8) 研究の方法・進め方・日常化について

- ・ 国語科を中心教科とし、1人1回ずつ研究授業を行う。
- ・ 教科担当者(理科・音楽など)の授業は、研修を通して行っていく。また、わかくさ学級については児童の健康と発達段階を最優先し、研修可能かどうかを見極めたうえで可能な場合に実施する。
- ・ **個別最適化の指導や、教師一人ひとりの児童を見る目を養うために、特別支援学級の授業を1回目に実施する。**
- ・ 事前研究は全体で行う。その後、必要に応じて学年部による事前研究も行い、全体の事前研究で出された内容を再検討する。
- ・ 事後研究は、ワークショップ形式で2グループに分かれて話し合うようにし、成果と課題、改善策について出し合いながら協議し、積み上げを図る。
- ・ 授業研後、3日以内に提案授業から学んだことをそれぞれが「授業改善宣言」を通して記入し、研究主任に提出(校務支援ソフトを活用)する。研究主任はそれを周知する。授業改善宣言を日常の授業で年間を通して意識していくことで取組の日常化を促す。
- ・ 学習指導部との連携を図りながら、学年に応じた「話す・聞く、書く、読む」力、「ふり返り」の力の定着を図る。また、日々の授業で様々な形態で学び合う場を確保していく。
- ・ 授業記録を残し、授業改善に生かす。
- ・ 研究主任は、事後研究で明らかになったことや成果と課題をまとめる。
- ・ 授業者は事後研究の話し合いをもとに、成果と課題、改善策を2週間以内にまとめる。
- ・ 学期末に研究推進委員会を開き、研究の成果と課題、研究の方向性について話し合う。
- ・ 生徒指導部の重点(2)「共感的な人間関係をもとに自尊感情の育成とよりよい生活をつくる自治的能力の育成」の視点に立ち、日常的に相手の考えを共感的に聞き、互いのちがいを認め合いながら進んで関わり合おうとする学級づくりに努める。
- ・ 外部講師をお呼びして研修を行っていく。
- ・ **市町研修等の授業研究会も校内研修の一環とする。**

### (9) 研究組織 (◎研究主任 ○副主任 △部会主任)



### (10) 年間計画

研究内容	授業者等	ご指導
4月13日(木) 研究推進委員会①		
<b>4月19日(水) 学校研究全体会①</b>	研究計画の検討	山形大学 准教授
5月17日(水) 事前研究① <b>5月18日(木) 事前研究①</b> <b>6月5日(月) 授業研 ①</b>	・3年 ・わかくさ	山形大学 准教授 (市教育委員会指導主事)
6月21日(水) 事前研究② <b>7月13日(木) 授業研 ②</b>	・1年 ・5年	山形大学 准教授 (置賜教育事務所指導主事)
<b>9月25日(月) 事前研究③</b> 10月11日(水) 事前研究③ 2回目 <b>11月17日(金) 学校研究発表会・授業研 ③</b>	・2年 ・6年	山形大学 准教授 (市教育委員会指導主事)
12月11日(月) 授業研修	・教頭 ・教務 ・4年 ・あおぞら	
12月21日(木) 研究推進委員会③	今年度の反省	
1月11日(木) 学校研究全体会②	今年度の反省・来年度に向けて	
2月7日(水) 学校研究全体会③(研究のまとめ)	研究集録帳合い作業 等+	

